

オイラ イノ吉

人間の皆さんは足りない時、足りても気に入らなければ、そこいらで買ってきてりゃあいい。オイラ、イノシシは買い物はしない。だから、農家には申し訳ないけど、時に畑のものも頂戴する。土を肥やしてミミズを増やしてくれる農家には、ホント感謝してますよ、ハイ。

だけど、オイラにはオイラの道があって、作物踏みつぶすこともあるし、畔を壊しミミズはいただく。時々、お百姓の泣きつつらを思い浮かべることもある。そんな時、オイラは、農家なんてみんな止めちまって、買ってくるようになればいいのにつて思っちゃう。

でも、ここんとこ、人間ども正気とは思えない。そこいらじゅう土にふたして、妙なものをうちやり、あたり一面まき散らしたりしてるっていうじゃないか。「何しやがんだ！」って、オイラだけじゃない、みんなおこってるさ。だから、いま残ってる泥は、みんなオイラ達のもんだ。人間どもは失格！ 出て行けってね。

なんでもいつでも買い物っていうのはどうかな。それも地べたのはてのでっかい水たまりの向こうから買ってくるっていうんだから。へーというほかない。世界は広いね。食い物があふれてるってのは、どんな所かね。

オイラは売らない、売るもんなんかない。せつせと掘ってもかん回しても、トントンだね、やっぱり。

これから冬越し仕度さ、厚い皮下脂肪を蓄えなくちゃいけないし。売る食い物があふれてるって、やっぱし信じられん。カラクリがあるに違いないよ。そのうちきっとポシヤるよ。で、そんな時どうすんのかね、あんたら人間たち。でも、泥は渡さないよ。

…イノ吉ひとり言を書いて早々に、暴れ雄ジシは、下記のごとく相成りました。翌朝の点検見回りは、前日までの野山とうってかわり静まり返っています。ケモノたちは皆、喪に服しているようでした。(晃)

秋 深まる

私は、イノシシ日誌を付けています。早朝から、ワナを点検し、イノシシの痕跡を追いかけて、被害状況を把握し、推理し、猟師さんたちと連絡を取り合う、夫の情報を書き残すためです。自分たちの畑では、侵入される方向に、簡易な網を張りましたが数日で突破され、とうとう電気柵を購入して、200m分囲いました。夫は、そのうち、頭がイノシシとなってしまったわけですが、おととい、とうとう、くくりワナに、この近辺の主であろう100キロを超える大物がかかり、猟師さんがとどめをさしました。私は、死んだあとを見ただけですが、その迫力にドキドキ、肝が冷えました。こんなのが、毎日里山から出てきて民家の庭先をかん回していたんですから。(写真は、猟師さんを真ん中に、手伝った人たち。夫は右端)



さて、木枯らしの吹いた畑では、秋冬野菜の作付けはほぼ終わって、落花生掘りがあと少し、サツマ芋を掘り終えて色々冬支度をしながら、玉ねぎ植えに入ります。並行してハウスを片付け、作付けを始めます。このところ、困っているのが、肥料不足の問題。これまで平飼いの鶏糞を分けてもらっていた隣の農家は、去年の雪害で鶏舎を建て替えたので、まだ鶏糞が集められません。うちの鶏小屋の鶏糞も底をつきそう。もう、やめる方向で縮小していた養鶏ですが、自前の肥料のためにも、新しい鶏を入れて続けようかと相談しています。この冬場に小屋を建てることのできたら話ですが。(10月26日 泰子)

